

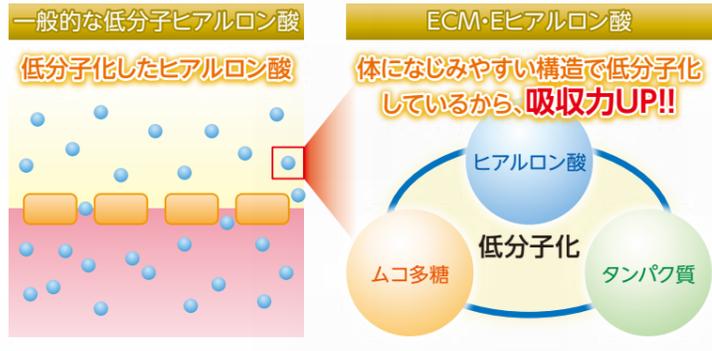
ご家族みんなの元気を応援します!

元気ニュース Genki News Vol.30

どーが違ふの?!



ヒアルロン酸 ECM・E ヒアルロン酸



ECM・Eヒアルロン酸は、鶏のトサカから特殊な方法で抽出した“細胞外マトリックス”と呼ばれる物質からできています。これにはヒアルロン酸を中心に、コラーゲンなどのタンパク質や複数のムコ多糖類がバランス良く含まれていて、人の体内におけるヒアルロン酸をとりまく形状とよく似ています。これをそのまま低分子化したのがECM・Eヒアルロン酸。体になじみやすい構造で低分子化しているから、優れた吸収力を発揮するのです。

それはこんな構造の違いによるものです!!

ヒアルロン酸は「ムコ多糖」と呼ばれる糖を構成する炭素、水素、酸素のうち、酸素の部分が窒素に置き換えられたアミノ酸です。ムコ多糖とは、アミノ酸を主成分とする多糖のことをいいます。

ヒアルロン酸を形の上から見ると、アミノ酸であるN-アセチル-D-グルコサミンとウロン酸であるD-グルクロン酸とが一列に規則正しく交互に結合しあった大変長い分子を持つ物質です。(図1)

一方、ECM・Eヒアルロン酸は生体の中ではヒアルロン酸を一本の軸として、これに洗浄用棒ブラシのようにムコ多糖や糖タンパクなどを結合させて大きな複合体を形成し、組織や器官の形状保持や衝撃緩和などに役立つようになっています。(図2)

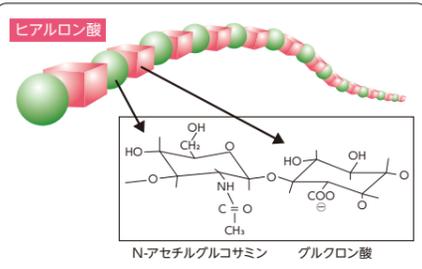


図1: ヒアルロン酸の形状と構造

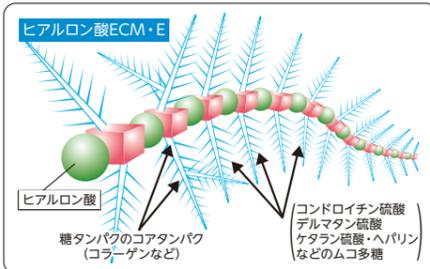


図2: ヒアルロン酸ECM・Eの形状と構造

ヒアルロン酸の分子量は全て同一ではなく、存在する部位や年齢、役割などによって異なるため**吸収されやすいような大きさに低分子化しなければなりません。**この低分子化を実現したものが「ECM・Eヒアルロン酸」なのです。



では、次のページからECM・Eヒアルロン酸の優れたパワーについてご紹介します!!



使用体験者が語る



ECM・Eヒアルロン酸の体験談

- アトピー性皮膚炎による乾燥肌、赤ら顔が治り、更に手のあれや運動後の筋肉痛もなくなりました。(35才・女性)
- 美肌効果の他、花粉症も治り、風邪もひかなくなりました。(53才・女性)
- 関節痛、歯周病もよくなり、美容効果も出てきて健康になってきました。(42才・女性)
- 膝の痛みが軽くなったので、やめていたウォーキングを再開しました。(74才・女性)
- 長い間苦しんできた膝の痛みもとれて、今では手をつかないで立ち上がれる程になりました。(68才・女性)
- 若返り、腰痛、関節痛、美容、育毛効果に加えてゴルフの飛距離が伸びるなどの効果が出てきて自信がついてきました。(69才・男性)
- ひどかった大人ニキビの数も減り、肌に弾力性が出てきましたが、ニキビの改善はいまいちです。(26才・女性)
- 肌の保湿効果、顔色、目の充血なども改善され、毛髪、爪の伸びも早くなるなどの効果が出てきています。(年齢不明・女性)
- 使用后8週間頃から肌のほりと潤いが実感できるようになり、高級化粧品の必要がなくなりました。(72才・女性)

アダプトゲン製薬資料より抜粋

健康 TOPICS 第25回 ちょっとカラダにいいお話

ECM・Eヒアルロン酸とあわせて摂りたい成分

E型コンドロイチン

コンドロイチンにはいくつかの型がありますが、イカ軟骨由来の「E型」には「A型」や「C型」にはない抗炎症・骨強化・筋肉増強の作用があります。さらに、軟骨成分であるコラーゲンの産生や骨芽細胞の増殖には**5倍以上の活性差**があります。



非変性II型コラーゲン

非変性II型コラーゲンは、海外で開発された新しい軟骨素材です。従来の変性タイプは膝、腰の軟骨に届く前に形が変わって削減するものでした。非変性タイプは、**体内に含まれるコラーゲンとほぼ同じ性状のもので、ほぼそのままの形で吸収**されるため、栄養素としての効果が期待されています。



イミダゾールジペプチド

イミダゾールジペプチドはアミノ酸結合体の一種です。疲れのメカニズムが解明されていく中で、疲労物質を弱める「FR」という疲労回復因子が発見されました。疲れを取るには体内にFRを増やせばいいわけですが、そのFRを作るのがイミダゾールジペプチドであることがわかってきたのです。この成分を摂ることによって**疲れを癒し、また疲れにくい体を作**ることができるといわれています。また、イミダゾールジペプチド自体に**老化や疲労の原因となる活性酸素を除去する働き**があるとされています。



次号までお元気で、お楽しみに!!

さまざまな
実験結果から
立証される

ECM・Eヒアルロン酸のパワー!!

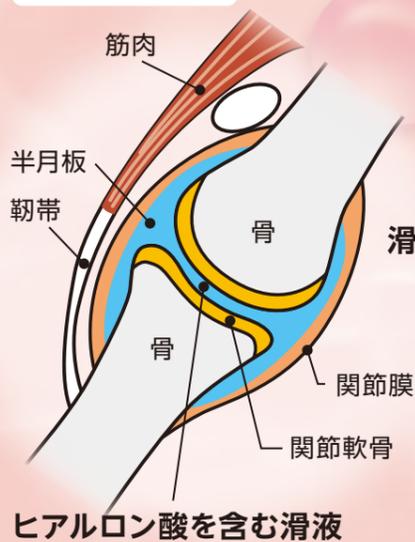
高齢になるほど表れてくる 関節痛とヒアルロン酸の関係



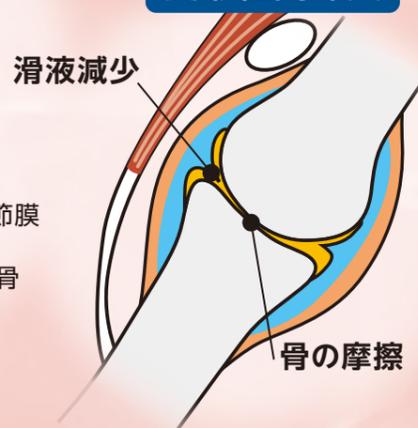
ヒアルロン酸には高い保水性、粘性と弾力性、更には潤滑性などの幾つかの優れた特性があることを用いて、医療分野においても幅広く利用されています。

整形外科の領域では、関節炎などの炎症を初め、変形性関節炎、関節の骨の傷みや異状をもたらす慢性関節リウマチなどの治療にもヒアルロン酸が注射剤として用いられ、効果を収めています。

正常な関節



変形性関節炎



関節にはムコ多糖を含む滑液がたっぷり存在しています。その中でもヒアルロン酸は「関節の油」というふくろの中にゼリー状の形で取り込まれ、これがクッションの働きをしているので骨と骨との摩擦を避け、円滑な活動や運動が出来るようになっています。またヒアルロン酸は十分な水分を保ちながら、その他のムコ多糖と相まって外力の緩和にも大きく役立っています。ヒアルロン酸はこれらの機能を有するほか摩耗した軟骨の修復などにも大きな効果を収めています。また、グルコサミンやコンドロイチンなども骨端の軟骨の構成成分として軟骨の修復や改善に寄与しています。

お肌への影響も一目瞭然!



ECM・Eヒアルロン酸がお肌に及ぼす実験結果

体内に吸収されるヒアルロン酸として、特許を取得しているECM・Eヒアルロン酸。吸収力の違いはそのまま保湿力の差になり、他の一般的なヒアルロン酸と比較すると一目瞭然。モニターによる調査でも、1か月後に75%以上の人潤いを実感しています。

お肌の潤い	変化した					無回答	変化した(2~5)と回答した人の割合
	1. 特に変わらない	2. なんとなく変化を感じた	3. まあ変化した	4. 明らかに変化した	5. 非常に変化した		
1ヶ月	24.2%	24.7	36.3	9.9	4.4	0.5	75.3%
2~3週間	28.3	32.6	29.9	7.1	2.2	-	71.7%
1~2週間	32.9	33.5	24.4	7.3	1.8	-	67.1%
~1週間	54.8	25.3	13.9	3.6	2.4	-	45.2%

変化を感じた人の約90%が2週間以内に体感。1週間以内でも体感を得た人が全体の45.2%。1ヶ月の使用で75.3%の人が変化を実感しています。

ECM・Eヒアルロン酸が変形性膝関節症に及ぼす実験結果

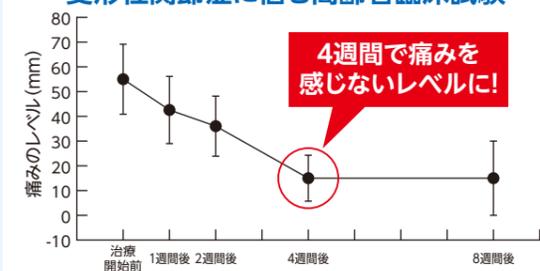
目的・方法

変形性膝関節症を伴う高齢者女性5名及び男性1名(平均年齢65±5歳)の6名を対象に、ヒアルロン酸ECM・E含有の健康食品を毎日朝食後及び夕食後にそれぞれ5粒ずつ(ヒアルロン酸ECM・E量は1050mg/1日)を8週間にわたって経口摂取させ、摂取前、摂取後1週間~8週間にわたる主観的疼痛の評価を通してその改善効果を検討した。

ヒアルロン酸ECM・Eの経口摂取に伴う主観的疼痛の軽減効果は、摂取開始1週間後から痛みが有意に軽減し始め、摂取後4週間目には最大となり、殆んど痛みを感じないレベルにまで達し、以後8週間までその結果が維持されることが証明された(図1)。その結果ヒアルロン酸ECM・Eは変形性膝関節症に伴う疼痛緩和に極めて有効であることが理解された。



変形性膝関節症に悩む高齢者臨床試験



摂取から1週目で既に痛みレベルが低下し、4週経過で疼痛をほぼ感じない程度に緩和している。

図1: ヒアルロン酸ECM・E摂取による主観的関節痛の変化

ECM・Eヒアルロン酸がアトピー肌に及ぼす実験結果

目的・方法

健康なマウスを所定の環境下で飼育してこれを3群に分け、A群は特殊飼料を与えてアトピー性皮膚炎を発症させた。B群はその特殊飼料の中にヒアルロン酸ECM・Eを所定量(1000mg/kg)加えて混合の上経口摂取させた。又、C群は対集群として普通の飼育を行い、A・B・C3群と共にその予後について観察した。

●アトピー性皮膚炎を発症したA群においては、投与開始後75日~77日目にすべてのマウスが死亡したのに対し、ヒアルロン酸ECM・Eを混合飼料として与えたB群においては100日間の実験中、死亡例は全く認められなかった。

●実験後の剖検においても、ヒアルロン酸ECM・E混合飼料摂取群と健常群の間には何らの差も認められなかった。これらの結果から、ヒアルロン酸ECM・Eはアトピー性皮膚炎の改善にも大きく寄与することが判明した。(図2)

アトピーを発症させたマウスの寿命は短く、80日弱で全て死亡したが、ヒアルロン酸ECM・Eを与える事により120日以上生存した。

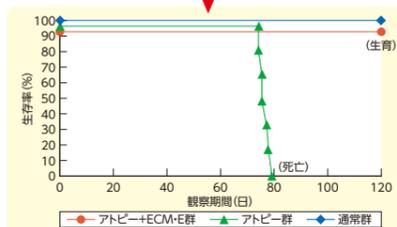


図2: 100日間継続投与によるマウスの生存状況

その効果は
アトピーにも!!

使用体験者からも
目に見えて
改善効果が伺えます!

